

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	島原市通園施設あいあい				公表日	令和7年2月5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		高学年になると体が大きくなるため部屋が狭く感じる	遊具の設置を工夫し狭いと感じないようにしている	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		法律で定めた配置基準以上の職員で支援している		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		子どもに分かりやすく色やイラストで知らせている		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		気持ちが落ち着かなかつたり、切り替えができないときは別室で対応できるようにしている。	事前に保護者に許可をもらって部屋を移動している	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5				
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者評価を職員全員で把握している	課題を共有することで改善や問題点を確認し検討している	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員間のミーティングで意見を出し合うようしている	話やすい雰囲気を作る様にしている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		外部評価はしていないが、必要であると思うため検討していく	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修の受講を促したり、事業所・法人内での研修にも取り組んでいる	外部講師に依頼してスキルアップできるよう取り組んでいる	
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		職員間で見直しや話し合いを行いホームページ上で公表している		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		必ず保護者と面談し、目標については保護者の思いもくみ取り計画書に反映させている	職員の分析力を向上させる必要がある	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		職員間で会議開き、子どもに合った支援の方向性を理解したうえで計画書を作成している	職員が子どもの事を理解して支援できるようミーティングを密にしている	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		職員全員が共有できるように取り組んでいる		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		子どもの発達状況に合わせたツールを使用し特性の理解や支援の方向性を検討している	利用しているツールを最大限に活用できる様、職員のスキルアップも必要	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに即した支援内容を個別支援計画書に表記している		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		必ず職員全員で行うようにしている		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		支援内容を見直し、研修等で得たスキルを活動内容に取り入れている。		

供 給	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		前回の反省を踏まえて支援内容の確認を行うようにしている。	子どもの担当を決めて保護者へもフィードバックしている。職員間で話し合うことで解決策が見いだせる
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		必ず反省を全員で行い、支援の方法があつたのかを話し合っている	反省点を必ず次回の支援内容に反映させ、保護者にも納得できる支援を心掛けている
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		担当者が必ず記録を行い、次回の支援に反映させている	記録の書き方、客観的な見方を学びながらその学習も必要と感じる
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に1回必ず保護者と面談し、目標の見直し等を行っている	モニタリングの話の仕方や目標の決め方を学習する必要がある
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5			
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		発達に合わせ選択できるように見守ったり、声掛けしている	支援方法の見直しや子どもに合った工夫等の学習の必要がある
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達管理責任者や担当者が参加するようにしている	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要であれば支援会議に参加したり、情報共有、交換をしている	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校とは必要な場合は見学の受け入れや会議を依頼している	送迎がないため、学校との関係は保護者を通じて確認することが多い
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	就学後は保育園等との連携はないが、他事業所とは情報共有があることがある	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5	事業所へ移行する児童がいない	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		講演会の講師の依頼をしている	職員向けの研修の実施をしてほしい
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		5	他事業所との交流や地域の子どもとの交流はできていない	必要と思われる保護者もいるため検討が必要
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		管理者（児童発達管理責任者）が参加している	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		利用の際には必ず保護者に声を掛け、子どもの様子について聞いている	職員からの声かけを積極的にするようにしている
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		保護者を対象とした研修会や講演会等を行うようにしている。	分かりやすい内容を心がけている
機 関 や 保 護 者 と の 連 携	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用者負担等に変更があった場合は文書での説明を行うようにしている	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		児発管が保護者へ説明を行い、同意を得ている	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		利用時相談等があれば話を聞くようにしている	時間をかける必要がある場合には別日に来てもらい面談するようにしている

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会を開催することで顔見知りになり、横のつながりができる。職員も知らない情報を収集することもできる	きょうだい同士の交流は難しく開催できない
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者から相談があった場合はその時に対応している。また、職員間で内容の情報共有を行なうようにしている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		研修会や保護者会の開催時は情報発信している。事業所での行事等など発信している	開催後もどのような内容を行ったのか、参加者の意見等も掲載するようにしている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		絵カードや写真を利用して、こどもに伝わりやすくしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		施設が病院内のため難しいところがある。	どうしたらできるのか検討も必要
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		グループごとに定期的に訓練は行っている。	いくつもの訓練が利用者全員には難しいところがある
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		実施訓練や机上訓練を行っている	机上訓練と実施訓練を一緒に行なうことで理解しやすくなった
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		保護者からの聞き取りや医療機関からの情報で把握するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者からの聞き取りや医療機関からの情報で把握するようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		年間の計画を立て定期的に行なうようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	ヒヤリハットがあった時はミーティングを行うようにしている。時間がたつと忘れてしまうことがある	なぜ起きたのか検討し、同じことを繰り返さないようにしている
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修を行い理解を促している	研修会等に参加し学習をしている
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束を行うことはない	